

論壇

危機10カ月、予測は困難

数日前、日頃利用している大学の近くの旅行代理店から廃業のメールが送られてきた。東京大学の近くにある海外旅行専門の小さな業者であるが、便利なので多くの大学関係者が利用していたはずだ。私も20年以上の付き合いになる。「3月以来、会社一丸となつてずっと頑張ってきたが、思いの外に長期化することになり会社を閉鎖することにした」とあいさつ文にあった。早く回復することを期待して頑張ってきたが限界にきた無念さが読み取れる。

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

コロナ長期化

コロナが世界的に広がり、経済が大きく崩れ始めたのが今年の3月である。それからもう少しで10カ月になろうとしている。当初想像したよりもずっと長く続いていると感じている人は多いだろう。それどころか、足元での感染の広がりが見え、今後さらに厳しい状況になるのではないかという不安感も広がっている。

感染が広がった初期、米国の連銀(中央銀行)の議長であったバーナンキ氏は、テレビのインタビューに答えて、今回のコロナ危機は吹雪に似た面があるというように発言をしていた。吹雪と同じように、人間の力が及ばないところで起きた危機である。外へ出たら命の危険がある。だから、ロックダウンが必要だし、その間の支援が政府の重要な役割となる。これは日本でも同じで、緊急事態に対処するため、国民全員に10万円が配られ、雇用を維持するための雇用調整助成金が出た。辛抱すれば終わるものだが、このウィルス感染が収まるのにはまだしばらく時間がかかりそうだからだ。

もちろんよいニュースもある。ワクチンの開発だ。報道されているようにワクチンが額面通りに有効であり、それが早期に世界全体で利用可能になれば、状況は大きく変わるはずだ。ただ、それがいつになるのか分からない。少なくともこの冬が終わるまでは難しいとすれば、コロナ危機は1年越えとなるだろう。その先のことも予想が難しい。

日本でも脱出戦略構想を冒頭に触れた旅行社の例のように、危機が長引くほど、この事態を持ちこたえられない企業が増えてくる。生活を維持することが難しい家計も増えているだろう。不況が長期化するほど、不況が及ぼす影響は深刻化していく。その状態を放置すれば、不況からの回復にも時間がかかる。

1930年代の大恐慌の中で、米国はニューディール政策という大胆な政策を行うことで経済を立て直しを図ろうとした。欧州では、これに学んだのか、温暖化ガス排出抑制を一気に進めることで経済の再生をはかるというグリーンディール戦略を打ち出している。再生可能エネルギーや電気自動車投資が加速化される。日本でもそろそろ、この不況からの脱出の戦略の大きな構想を描く時期なのかもしれない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。